



目次

グローバル時代の武道 —比較文化論的考察と グローバル化に向けての課題—

『武道論集』第3集刊行にあたって 研究所長 魚住孝至 …………… i

第一部 東アジアにおける武道・武術・武芸

第1章 日本の武道の比較文化論的考察

—グローバル時代の武道に向けて— 魚住孝至

はじめに

- I. 近世武術文化— 武道の伝統的基盤 ……………13
 - 1. 近世武術文化の成立
 - 2. 近世流派武術の性格
 - 3. 中国・朝鮮の武術との比較
 - 4. 近世後期、撃剣の展開
- II. 武道の近代的再編 ……………22
 - 1. 武術の近代化
 - 2. 柔道の誕生— 伝統性と近代性、国際性
 - 3. 武道の近代社会への定着— 武徳会・学校教育・競技会
 - 4. 戦時中の精神主義化
- III. 現代武道の展開— 競技化と国際化 ……………31
 - 1. 戦後、武道の禁止から復活へ
 - 2. 東京オリンピックの前後
 - 3. 武道が行われる環境— 学校の部活動と町道場
 - 4. 武道の国際的展開
- IV. 海外での武道— 2つの流れ ……………38
 - 1. 競技化の追求— IJF の展開
 - 2. 武道の精神性の強調 — 『弓と禅』を中心に
- V. グローバル時代の武道 ……………43
 - 1. 武道をめぐる国内状況の変化
 - 2. 海外での武道をめぐる状況
 - 3. 武道界の新たな動き

おわりに

注

第2章 中国の武術と日本の武道との比較 —— 林 伯原

はじめに

- I. 中国の「武人」と日本の「武士」……………53
 - 1. 中国における「武士」「武人」
 - 2. 日本における「武士」
- II. 中国の「尚文卑武」と日本の「文武両道」……………55
 - 1. 中国における「尚文卑武」
 - 2. 日本における「文武両道」
 - 3. 近代中国における武術の展開
- III. 異民族との戦争で展開した中国武術と「島国」日本の武道……………58
 - 1. 異民族との戦争で展開した中国武術
 - (1) 漢と匈奴の戦争—剣から刀への転換
 - (2) 鮮卑族の侵入—戟に代わる槊の使用と普及
 - (3) 遼・金・西夏・元との戦争による多様な武器と技法の発達
 - (4) 明の倭寇の侵略による倭刀術の導入
 - (5) 清の支配下での武術
 - (6) 各民族の融合 — 「回族武術」の形成
 - 2. 島国で展開した日本の武道
- IV. 中国の拳法諸流派と日本の剣術諸流派……………67
 - 1. 拳法中心の中国武術
 - 2. 剣術中心の日本の流派
- V. 中国の武術体系と日本の専修武芸……………71
 - 1. 複数の武技からなる中国武術
 - 2. 単一武技の日本の流派
- VI. 「套路」重視の中国武術と「打ち合い」重視の日本武道……………74
 - 1. 「套路」を重視する中国武術
 - 2. 「打ち合い」を重視する日本
- VII. 中国武術における「気」と日本武道における「気」……………77
 - 1. 中国武術における「気」
 - 2. 日本の武道における「気」

今後の展望

注

中国武術についての主な文献と参考書

- I. 中国武術の古典
- II. 中国武術史の研究

第3章 朝鮮半島における武芸の伝承と 韓国武芸としての展開 — 朴 周鳳

はじめに

- I. 朝鮮半島における武芸の歴史伝統87
 - 1. 三国時代の武芸
 - 2. 高麗時代の武芸
 - 3. 朝鮮時代の武芸
 - 4. 日本の植民地時代の武芸
- II. 戦後の韓国武芸の成立と展開91
 - 1. 今日における伝統的武芸の現況
(1) シルム (2) 弓術 (3) 二十四班武芸
 - 2. テコンドーの誕生の展開経緯
(1) テコンドーの成立事情 (2) テコンドーの独自性の形成
(3) テコンドーの競技化・国際化
 - 3. 重要無形文化財としての武芸「テッキョン」
(1) 重要無形文化財の指定の経緯
(2) 文化財からスポーツへの展開
 - 4. 海東剣道の創造と展開
(1) 海東剣道の誕生説話 (2) 海東剣道の普及
(3) 海東剣道の海外普及

おわりに

注

韓国武芸についての主な文献（韓国語文献）

第二部 武道のグローバル化に向けての課題

第1章 柔道における国際化の諸問題 — 柏崎克彦

はじめに

- I. 柔道の国際的普及と発展114
 - 1. IJF 設立までの経緯
 - 2. IJF 創立後の国際的普及の経緯
 - 3. 近年の世界柔道の流れ
- II. 国際化によって生じた問題と日本の対応120
 - 1. 組織に関わる問題〈国際的な政治力〉
 - 2. 競技規定に関わる問題
 - (1) 体重区分の細分化 (2) 新たな判定基準「効果」の導入
 - (3) ブルー柔道衣の採用 (4) 技の制限
 - (5) 世界ランキング制度の導入

今後の課題（まとめ）

- (1) 積極的情報収集とロビー活動
- (2) 積極的競技規定改正への関与
- (3) 教育性に着目した普及活動
- (4) 国際武道大学の使命

参考文献

第2章 ドイツにおける柔道の現状—指導法を中心に—

—マーヤ・ソリドール

はじめに

- I. 戦前のヨーロッパ、特にドイツにおける柔道の主な展開 ……141
 1. 柔術のヨーロッパへの紹介
 2. 戦前のヨーロッパにおける柔道の主な展開
 3. ドイツでの柔道の始まり
- II. ドイツにおける現代柔道の主な展開及びその現状 ……145
 1. 現代柔道の主な展開
 - (1) 競技スポーツへの展開
 - (2) 競技化の進化
 - (3) ドイツ再統一以降の展開
- III. ドイツ柔道の現状 ……148
 1. 柔道環境の視点から見た柔道の特徴
 - (1) 登録人口の現状
 - (2) クラブ制度
 - (3) 競技スポーツとしての現状
 2. ドイツ柔道連盟の現在の主な方針
 3. ドイツ柔道の展望
- IV. ドイツ柔道連盟の育成プログラム ……151
 1. 7才以下の子供を対象とする育成プログラム
 2. 7～14歳を対象とする育成プログラム
 - (1) 構成及び主な特徴
 - (2) 昇級審査の各科目の解説
 3. 有段者・指導者の育成プログラム
 - (1) 独柔連の昇段審査規定の概念及びその主な特徴
 - (2) 初段から三段までの段階
 - (3) 四段・五段の段階

おわりに

注釈

参考文献

第3章 剣道における国際化の諸問題 ——阿部哲史

はじめに

- I. 国際化の歩み167
 - 第1期 (明治後期～第二次世界大戦終結)
 - 第2期 (第二次世界大戦終結～1980年代まで)
 - 第3期 (1990年代～現在)
- II. 国際組織の発足と発展170
 - 1. 国際剣道連盟の発足までの歩み
 - (1) オリンピック東京大会 (2) 国際社会人剣道クラブ
 - (3) 国際親善剣道大会
 - 2. 国際剣道連盟の結成と展開
- III. 日本による普及活動174
 - 1. 全日本剣道連盟
 - (1) 指導者の海外派遣 (2) 中古防具の寄贈
 - (3) 英語版指導書の出版 (4) 外国人研修合宿
 - 2. 日本武道館
 - (1) 日本武道団海外派遣 (2) 海外青年招聘武道演武会
 - (3) 国際武道大学 (4) 国際武道文化セミナー
 - 3. 青年海外協力隊
 - (1) 剣道指導者の派遣経緯 (2) 活動の実績・内容
 - 4. 大学による交流
 - 5. 民間の道場・個人による活動
- IV. 国際化にともなう問題179
 - 1. 剣道用具の不足
 - (1) 地域差 (2) 改善策と新たな課題
 - 2. 指導者の育成
 - (1) 改善される状況 (2) 生涯剣道
 - 3. 国際剣道連盟のあり方
 - (1) 全日本剣道連盟との関係 (2) 国際剣道連盟の変化
 - 4. 普及に対する考え方
 - (1) 国際剣道連盟歴代事務総長の見解
 - (2) 外国人剣道家の意見
- V. 国際化のゆくえ188
 - 1. 剣道独自の価値
 - (1) 戦後の日本文化ブームの中での剣道
 - (2) 剣道をとりまく環境の変化
 - 2. 剣道の文化性の普及
 - (1) 剣道の文化性普及の立ち遅れ
 - (2) 剣道の文化性普及の方法

おわりに
注
参考文献

第4章 武道のグローバルな展開に向けて

——アレキサンダー・ベネット

はじめに

1. 日本武術の早期国際普及 — 「実戦性」の魅力
2. 武道の「文化性」と日系のアイデンティティ
3. 戦後期における武道の国際普及
4. 外国人が武道を始める動機や目的
5. 武道の「精神性」— “New Age” の魅力

結論

注

付録225

1. 武道・武術・スポーツの比較略年表
2. 外国語による武道文献
 - (1) 英語 (English)
 - (2) フランス語 (Français)
 - (3) ドイツ語 (Deutsch)
 - (4) スペイン語 (Español)

著者紹介238